

令和 8 年 9 月 15 日 通告

(一般質問)

質問日	令和 8 年 9 月 2 8 日 (月)			質問方式	分割方式		
質問順位	2	会派名	自由民主党浜松	議席番号	13	氏名	中野 和幸
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 浜名湖の潮干狩りの復活	かつて舘山寺や弁天島などをにぎわせた潮干狩りは、浜名湖のアサリ漁獲量が大きく減少したことから開催できない状況が続いている。本市や静岡県、漁業関係者、研究機関などによりさまざまな取り組みが進められているが、アサリ資源の本格的な回復には至っていない。 アサリ資源を復活させるためには、その育成を支える浜名湖の環境全体を再生する必要があるが、その中でもアマモ場の再生が重要であると考えており、もう一度浜名湖で多くの家族や子どもたちが潮干狩りを楽しむ風景を取り戻したいと願っている。 そこで、以下伺う。 (1) アサリの資源回復におけるアマモの役割について (2) 潮干狩りの復活に向けた取組について						中野市長
2 舘山寺を起点とした環浜名湖の復活	浜名湖周辺には、舘山寺、弁天島、舞阪、雄踏など、それぞれに魅力ある観光資源がある。 中でも舘山寺は、スマートインターチェンジの開通や E X P A S A 浜名湖の新施設開業など、新たな人の流れが期待されている。 こうした機会を生かし、舘山寺の滞在時間や宿泊客を増やすとともに、その効果を浜名湖全体へ広げていくことが重要である。 そこで、以下伺う。 (1) 舘山寺エリアには滞在時間の短さや夜間消費の少なさが課題となっている。 本年 2 月には、地域や施設を点から面へつなぎ、にぎわいの創出を目指す「舘山寺エリア活性化プロジェクト」が発足した。 そこで、舘山寺エリア活性化プロジェクトの進捗状況と今後の取組について伺う。 (2) ナイトタイムコンテンツの充実、滞在時間や宿泊客、夜間消費の増加に加え、閑散期の解消や雇用の創出、他の観光地との差別化にもつながる。 これまで舘山寺では、民間事業者により、湖上レストランや湖上星空観察会など、浜名湖の水面を生かした取組が行われてきた。 そこで、舘山寺ならではのナイトタイムコンテンツをどのように充実させ、エリア全体の周遊、滞在時間、夜間消費及び宿泊客の増加につなげていくのか、ナイトタイムコンテンツの充実について伺う。						金子観光・ブランド振興担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
3 舞阪駅周辺のまちづくりについて	舞阪駅周辺は、交通の利便性が高く、市西部の生活拠点として重要な地域である。一方、人口減少や高齢化、防災環境の変化などを踏まえ、将来を見据えた土地利用を検討する必要がある。 そこで、舞阪駅周辺の今後のまちづくりについて、以下伺う。 (1) 令和6年2月議会の答弁では、舞阪駅周辺の土地利用について、地域の意見を踏まえ調査研究するとされた。その後の調査や庁内検討、地域意見の把握状況について伺う。 (2) 都市計画マスタープランでは、舞阪駅周辺を交通結節点、生活拠点に位置付けている。公共交通の利便性を生かし、住宅だけでなく、商業、事業、医療、福祉、交流機能などを支える地域として、今後どのような役割を担うと考えているのか伺う。 (3) 舞阪駅周辺は津波浸水リスクなどから、立地適正化計画の誘導区域に位置付けられていない。静岡県第5次地震被害想定も踏まえ、土地利用や都市計画上の位置付けを改めて検証する考えはないか伺う。	濱田都市整備部長
4 技能職の担い手確保・育成と事業承継について	人口減少が進む中、本市の建設業や製造業などでは、技能職の担い手不足が深刻になっている。 私自身、工務店を経営してきた経験からも、職人の確保が年々難しくなっていることを実感している。また、熟練技能者の高齢化が進む中、長年培われてきた技術や技能が次の世代へ継承されず、失われてしまうことに強い危機感を持っている。 A I やデジタル技術が発達し、省人化や効率化が進んでも、現場で培われた職人の経験や技能は容易に代替できるものではない。人口減少時代だからこそ、技能職の担い手を確保し、若い世代を育て、技能を次世代へつなぐことが重要だと考える。 また、人材だけでなく、企業そのものを次世代へつなぐことも重要である。後継者不足によって事業が廃止されれば、雇用だけでなく、その企業が長年培ってきた技術やノウハウまで失われることになる。 そこで、以下伺う。 (1) 建設業・製造業などにおける技能職の担い手確保・育成の取組状況について伺う。 (2) 本市の事業所数において大きな割合を占める建設業・製造業について、事業承継の実態と本市の取組状況について伺う。	中村産業部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
5 管理不全となる 空き家と太陽光発電施設	人口減少や高齢化、社会環境の変化に伴い、空き家の増加や、今後 F I T 期間を終える太陽光発電施設への対応が課題となる。 いずれも、管理不全となってから対応するのではなく、将来を見据えて適正な管理や有効活用につなげていくことが重要と考える。 そこで、以下伺う。 (1) 管理不全な空き家について、所在地や所有者の状況などをどのように把握しているのか。また、問題が深刻化する前に所有者を把握し、適正管理や除却などにつなげるため、どのような取組を進めているのか伺う。 (2) F I T の買取期間を終える太陽光発電施設への対応について、以下伺う。 ア F I T 期間終了後、設備の老朽化や事業者の倒産・撤退などによって、適正に管理されない設備が生じることを防ぐため、放置リスクにどのように対応していくのか伺う。 イ F I T 期間終了後も、既存の太陽光発電設備を有効に活用していく観点から、本市として今後の太陽光発電事業の進め方をどのように考えているのか伺う。	水谷市民部長 鈴木カーボンニュートラル推進担当部長
6 高齢者が地域で つながり、支え合 う地域共生社会に ついて	高齢化が進む中、高齢者が元気なうちから地域とのつながりを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりが重要である。 また、介護や支援が必要になった場合や、認知症になった場合でも、できる限り地域とのつながりを保ちながら生活できる地域共生社会の実現が求められている。 そこで、以下伺う。 (1) 中央区における元気はつらつ教室終了後も、介護サービスを必要としない高齢者が孤立せず、地域で交流や介護予防、社会参加を続けられる居場所を、どのように確保していくのか伺う。 (2) 元気はつらつ教室終了後、自力で地域の通いの場等へ移動することが難しい高齢者に対し、送迎や移動支援をどのように進めていくのか伺う。 (3) 認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域包括支援センター、民生委員、自治会、社会福祉協議会、医療・介護関係者等が連携した支援体制を、今後どのように進めていくのか伺う。	新谷健康福祉部長